

# 路面電車活用計画策定の趣旨

## (1)札幌市路面電車活用計画策定の目的

札幌市では、今後の超高齢・人口減少社会の到来を見据え、路面電車を都心や都心周辺部での利便性の高い生活を支える交通機関として、さらには、人や環境にやさしく、魅力や賑わいを創出するという特性を生かし、札幌市全体の活力向上に資する都市基盤として、都心のまちづくりに大きく貢献させていきたいと考えています。

また、今後も路面電車の安全で安心な運行を継続するためには、施設や設備の計画的な更新を図るとともに、さらなる経営の効率化や利用者負担のあり方の見直しなどを前提として収支を改善し、路面電車事業の健全な経営を確立することが急務となっています。

このようなことから、札幌市路面電車活用計画は、路面電車事業の今後の経営見通しを立てたうえで、これまでの検討結果を踏まえて実施する、路線のループ化、既設線の機能向上等の取組と、併せて活用の前提となる経営の健全化についての考え方を体系的に整理し、路面電車活用に関する基本的考え方と今後の方向性を明らかにすることを目的としています。

### 関連計画における路面電車の位置付け・役割

札幌市路面電車活用計画は、各種まちづくり計画との整合を図るとともに「札幌市総合交通計画」や「札幌市路面電車活用方針」を踏まえて策定したものです。

#### 「第4次札幌市長期総合計画」

平成12年(2000年)策定

路面電車については、「都心や都心周辺部での利便性の高い生活を支えるとともに、魅力ある都心の創造に寄与する都市の装置として、その機能の向上や拡充について検討を進める」としている。

#### 「都心まちづくり戦略」

平成23年(2011年)策定

過度に自動車に依存しない、都心の交通体系の実現を図るための方策として、「新たな回遊やにぎわいを生み出す路面電車の導入」があげられている。

#### 「札幌市総合交通計画」

平成24年(2012年)策定

路面電車は、「これからの時代を見据えた新たな役割が求められており、創造都市さっぽろ、環境首都・札幌の実現に貢献していく交通機関」と位置付けている。



## (2)路面電車の現状と検討経過

札幌市の路面電車は、市域の拡大や人口の増加を支え、市民の足として札幌の発展に大きく貢献してきましたが、昭和48年度以降、地下鉄の開業に伴う事業規模の縮小や沿線の集客施設の移転などにより利用の低迷が続き、地下鉄東西線開業直後である昭和52年度に1日あたり約3万7千人であった乗車人員は、平成22年度には約2万人にまで減少しています。

札幌市では、このような乗車人員の減少に伴う厳しい経営状況に対応するため、業務の一部委託化や非常勤運転手の活用を実施するなど、数度にわたる経営の見直しを行い、今日まで事業を継続してきました。

一方で、札幌市では、平成17年(2005年)に市民の存続の意向やまちづくりへの活用の可能性などを踏まえて路面電車の「存続」を決定し、その後、学識経験者等からなる「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」を設置し、まちづくりへの活用の検討を進めていくこととしました。

平成18年(2006年)には、同会議により1年間の議論を経て「札幌駅周辺、大通、すすきのの3地区を結ぶために延伸する必要がある」等の提言を受けています。

札幌市は、この提言を踏まえさまざまな検討を進め、平成22年(2010年)3月に「札幌市路面電車活用方針」を策定し、経営基盤の強化やまちづくりへの活用を図るため「路線を延伸すべき」と考え、延伸検討地域として、「都心地域」「創成川以東地域」「桑園地域」の3地域を設定しました。

平成22年(2010年)4月以降、札幌市では、この活用方針について、フォーラムや全区におけるパネル展の開催等により、市民との情報の共有化や意向の把握を進めるとともに、「路面電車の活用を考える市民会議」を開催し、延伸の実施や具体的な延伸ルートについて多くの意見をいただきました。

これらを踏まえ、平成23年(2011年)から、札幌市では、先に述べたようにこれまで以上の路面電車事業の経営努力が必要であるとの認識のもとに、都心地域の延伸実現に向け、まずは西4丁目停留場とすすきの停留場をつなぎ、路線を環状化する「路線のループ化」や「経営の健全化」に関する具体的な検討を進めてきました。

こうした状況の中で、札幌市の中期実施計画である「第3次札幌新まちづくり計画」において路線のループ化の実現と低床車両の導入を位置づけるとともに、今後の健全な経営の確立を見据え、これまでの検討を踏まえてループ化に関する具体的な内容を「札幌市路面電車活用計画」として取りまとめました。

なお、この計画の策定にあたり、平成24年2月13日から3月13日までパブリックコメントを実施し、いただいた64件の意見を参考にさせていただきました。

### 路面電車の活用を考える市民会議

平成22年(2010年)に、本格的な市民議論として、この会議では、無作為抽出により選ばれた全区の市民による大規模な市民会議を開催しました。この会議は、参加者30人規模と100人規模の2段階で行われ、参加者により、採算性の向上やバリアフリーに対応した低床車両の導入といった路面電車の課題解決の方策や各延伸検討地域の評価等について議論が行われました。議論の結果は「路面電車の活用についての市民意見」としてまとめられ、市長へ直接手渡されました。

